

伊豆八十八札所巡礼報告書

2021年11月10日（水）快晴

文・写真 後藤

巡路 益山寺P 発7:46 一往復一 P8:20～バス～蔵春院発9:01 一立花台峠9:45 一長源寺10:12～45 一長温寺11:45 一古奈湯元公園（昼食）一柿狩り一北條寺14:02 一慈光院15:21～バス～三島駅

距離＝約18km 参加＝11名

最初、前回、悪天候で上れなかった、益山寺に行く。急な坂道は乾いて滑らなかった。足が揃っていて問題なし。大銀杏の紅葉は、まだ早かった。紅葉は、平均気温が9度にならないと始まらないという。それにしても遅い。温暖なのだ。下山しバスで前回最終の田京・蔵春院に向かう。寺の住職は、三島広小路・常林寺の亡くなった前住職の弟さん。現在、常林寺は息子さんが継いでいる。駐車場からスタート。



益山寺

天気は快晴。風が強い。気温はホドホドで歩き易い。立花台に差し掛かった。コースは山裾と峠越えがある。今回は足が揃っているなので、峠越えを選んだ。全く問題なかった。誠に頼もしい。長源寺に裏道から入る。寺は高台にあり見晴らしはサイコー。

お勤め後、住職と交流。本堂の天井には花の絵が描かれている。三種類の絵を繋ぐと「ほとけ」の文字になる。住職の話では、小学生がすぐ読み解くそうだ。本堂脇に「おまたぎ」がある。「ウスサマ明王」という、火の神様を祭ってある。

・・・ウスサマは、昔、欲深くむさぼりの心が強かったという。「むさぼりの心が強い者は、燃え盛る欲望の炎になってしまう」といわれる。ウスサマは、むさぼりの心を戒めた。そのお陰で、欲望の炎は智慧の光となり仏の位にのぼることが出来た。ウスサマは、智慧の光によって、煩惱を焼き尽くす仏とし信仰され、心の汚れを綺麗にするという力から、不浄所の守護神、さらに下半身に靈験がある仏となった・・・

床にトイレを模した穴があり、それを跨ぐと、下半身の病気に掛からないと、皆さん、跨いで無病を願った。住職は若くフレンドリーな方で昔から評判。寺を辞す時も、手を



長源寺



おまたぎ

振っていつまでも見送ってくれた

長源寺を辞し、山を下りる。右手に雲を孕んだ富士山が大きい。ビニールハウスは、トマトの黄色い花が沢山咲いていた。R136を横断し、狩野川堤防を進む。水量が少ない。保育園の子供が元気。

長岡温泉場に入る。右折して程なく長温寺着。本堂では住職がご婦人と「ご詠歌」の練習中。前回もやっていた、最後は我々にも教えてくれ、一曲(?)詠った。今回はなし。



長湯寺



足湯



柿狩り

昼になった。近くの古奈湯元公園で昼食。少し風があったが問題なし。食後は、皆さんと足湯で「混浴」。お湯の温度が丁度良く、サイコーに気持ち良い。いうまでもなく、湯後の歩きは快調だった。

狩野川放水路から北條寺に向かい。この辺りは柿畑が多い。右手の大きな柿畑で収穫をしていた。さっそくKが購入交渉。皆もワラワラ出向き交渉。結局、大きな次郎柿＝1ヶ100円で成立。私は10ヶ＋5ヶ（サービス）だった。翌日、さっそく頂いたが、柿は大きい糖分は少なかった。主は「サクマ」さんだった。また、「遊びに来て下さい」とのこと。

北條寺着。住職のワタナベさんは、境内にいたが、すぐ引っ込んでしまった。元教師の住職は、耳が遠く意志の疎通を欠く。以前は一緒に読経したが、最近はつれない。大河ドラマの影響で「五月蠅くて堪らない」と話していた。結局、住職とは何の会話もなく辞した。

狩野川を渡り葦山に入る。道が長い。寝不足で足が重かった。慈光院を少し通越してしまった。寺の入り口の六地藏の香花がカラカラに枯れていた。ちょっと見すばらしい。本堂は新しく、まだ木の香りが漂っていた。ご本尊もキンピカ。前回との間に建て直しをしたのか。今回はここで終了。なかなか厳しい巡礼でした。

瀬戸内さんが亡くなった。四国お遍路時、生家の仏具店に寄った。残念。いつまでも

いて欲しい方だった・・・合掌。



長源寺



松原橋



慈光院